〈研究論文／事例研究論文／展望・総説論文〉

大学教育学会誌原稿テンプレート

──研究論文／事例研究論文／展望・総説論文用──

第一執筆者名・共同執筆者名・共同執筆者名※

 （第一執筆者所属機関名）（共同執筆者所属機関名）（共同執筆者所属機関名） （※非会員）

＊執筆者名と所属機関名は採録決定まで記入せずにその分の余白を空けてください
（文字色を白にしたり背景色を黒にしたりする方法は不可とします）．

原稿分量を正確に把握するため，本欄を含む注記は投稿時に削除してください．

このテンプレートは，大学教育学会誌の投稿論文（研究論文，事例研究論文，展望・総説論文）用です．原稿の書式・体裁を定めてあるほか，原稿の内容に関する執筆上の注意事項等をまとめてあります．各号の投稿募集案内および関係規程等とあわせて十分ご確認のうえ，原稿をご作成ください．

本欄には和文抄録を500字程度で記載してください．フォントは，日本語はMS明朝，英数字はTimes New Roman（半角）を使用します．文字サイズは10ポイントとし，左右のマージンはそれぞれ40ポイントとします．投稿時は本欄と同じ和文抄録をウェブ上でも記入してください．

なお，英文抄録（英文の表題，氏名，所属機関名，キーワードを含む）は投稿論文用の英文抄録のテンプレートを参考に，採録決定後に原稿の最終ページの後にページを追加して記載してください．その際，英文は校閲を受け，その証明（書式自由）を別途提出してください．採録決定から提出までの期間が1週間程度と短いためあらかじめご注意ください．

〔キーワード：大学，学会，高等教育，単位制度，授業〕

# 1．タイトルページ

タイトルページは2つの部分で構成されます．

## (1) タイトル部分

タイトル部分は，横1段組（表題，執筆者名，所属機関名，和文抄録）としてください．ただし，執筆者名と所属機関名は採録決定後に記載することとし，それまではその分の余白を空けてください（文字を伏せる際には「○」等の文字に置き換えてください．文字色を白にしたり，背景色を黒にしたりする方法は不可とします．以下，執筆者の分かる情報を伏せる場合はすべて同様とします）．副題がある場合は表題の次行に「──」で囲んで示します．また，執筆者が複数の場合は執筆代表者名を筆頭（第一執筆者）に置き，共同執筆者名を「・」でつなぎます．共同執筆者に非会員や団体会員が含まれる場合は，採録決定後に，当該執筆者名に「※」を上付きで付し，所属機関名の最右端に「（※非会員）」「（※団体会員）」と明記してください．

フォントは，日本語はMS明朝，英数字はTimes New Roman（半角）を使用します．文字サイズは，表題は16ポイント（副題は12ポイント），執筆者名は11ポイント，所属機関名は9ポイント（非会員・団体会員等の注記は8ポイント），和文抄録は10ポイントを使用します．

なお，タイトル前の〈 〉内は該当する投稿区分のみを残し，他は（スラッシュを含めて）削除してください．

## (2) 本文部分

本文部分から横2段組になります．上記例を参照し，冒頭にキーワード5～7語をつけてください．

フォントは，日本語はMS明朝，英数字はTimes New Roman（半角）を使用します．文字サイズは，10ポイントを使用します．

執筆者が特定される情報（1人しか担当者のいない授業や部署の情報，論文の元となった学会発表の情報，印刷中の自著の情報，等）や表現（拙稿，著者が代表を務める○○，等）は避けてください．研究不正や研究倫理違反が疑われないような本文の説明および図表の提示の都合上，執筆者名を記述する必要がある場合は表現を工夫してください．特に，発表済みの自著を引用する場合は，二重投稿や二重出版が疑われないよう，先行研究として正しく位置づける説明を行うことにも留意してください．

非公開データに基づく研究では，当該データ提供元からの同意を取得し本文中に明記してください．

なお，原稿の分量は，1ページを25字×45行×2段（2,250字）相当とし，タイトルページも含めて刷上10ページ以内とします．ただし，採録決定後に追加する英文抄録の掲載ページはこの分量に含みません．

# 2．見出しの書式

見出しは，章，節，項の3段階までとします．見出しのフォントは，日本語はMSゴシック，英数字はArial（半角）を用います．

## (1) 章の見出し

章の見出しは，前後に1行ずつの空行を入れた上で左寄せとし，アラビア数字（半角）で番号を付けます．

## (2) 節の見出し

節の見出しは左寄せとし，半角の両括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます．前後に空行は入れません．

## (3) 項の見出し

できるだけ見出しは，章と節の2段階にしますが，必要な場合は，項の見出しを左寄せとして，1)など半括弧にアラビア数字（半角）で番号を付けます．前後に空行は入れません．

# 3．注，参考文献および謝辞

注，参考文献および謝辞は，本文の後に一括します．それぞれの見出しは，前にのみ1行の空行を入れ，中央寄せで「注」「参考文献」および「謝辞」とし，フォントはMSゴシックとします．

本文中での参考文献の指示は，著者姓・刊行年次を小括弧に入れて示します．たとえば，「…（小笠原，2004；松下ほか，2013）」，「絹川・舘（2004）は…」など．外国人名は原語で表記します．たとえば，「Barr & Tagg (1995) では…」，「…(Entwistle et al., 2010)」など．直接引用の場合は，引用箇所のページ番号やページ範囲を極力明記します．たとえば，「…(Barkley, 2010, p. 10)」，「…（ウィギンズ・マクタイ，2012，pp. 5-6）」など．

## (1) 注

注は必要最小限にとどめるものとしますが，注を付す場合，本文の該当箇所に1)など半括弧にアラビア数字（半角）で上付きの番号1) を付け，参考文献の前にまとめて記載します．

## (2) 参考文献

文献は著者姓のアルファベット順とし，番号は付けず，各文献について全角1字ぶら下げ（先頭行は字下げせず，2行目以降を全角1字下げ）とします．記載方法は，文献の種類だけでなく，日本語文献か外国語文献かによっても細かく異なります．詳細は本テンプレートの「参考文献」の箇所を十分に参照してください．

## (3) 謝辞

謝辞は論文の最後に記載します．ただし，投稿時には謝辞は見出しのみを付して内容は余白とし，採録決定後に挿入してください．

# 4．図（写真）および表

図（写真）および表（以下，図表）は，白黒印刷となることを前提とした鮮明な原稿を作成し，本文中に挿入ずみの状態としてください．図表は最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめてはいけません．

図表の幅は，1段または2段のいずれかとし，両脇に余白が生じても文字を入れないようにします．

図表には，アラビア数字（半角）で通し番号を付し，表の表題は表の上部に，図（写真）の表題は図（写真）の下部に，いずれも中央寄せで記します．表題のフォントは，日本語はMSゴシック，英数字はArial（半角）を用います．なお，図表が一つの場合にも，図1または表1と記します．

図表（表題を含む）と文章本体との間には1行の空白を設けて区別を明確にします．

# 5．文章表現

和文は，常用漢字，現代仮名遣いを用います．

句読点は，全角のコンマとピリオドを使用します．

数字は，熟語・成語に含まれるもの以外は，アラビア数字（半角）を用います．

略語は，一般的に用いられているものに限ります．まぎらわしい略語には，初出の際に原語と日本語の訳語を小括弧で示してください．

外国人名は，通常片仮名書きとし，初出の際に原語を小括弧で付してください．

原稿は，正しい日本語で書いてください．日本語を第一言語としない執筆者は，投稿前に校閲を受けてください．

注

1） 注の一覧は，本例のように，各注について全角1字ぶら下げ（先頭行は字下げせず，2行目以降を全角1字下げ）とします．

参考文献

（例）

〈単行本の場合〉

Barkley, E. F. (2010). *Student engagement techniques: A handbook for college professors*. Jossey-Bass.

（順番に，著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所，最後もピリオドが必要）

大学教育学会25年史編纂委員会編 (2004)『あたらしい教養教育をめざして』東信堂.

（順番に，著者名，発行年(直後にピリオドは不要)，書名(二重カギ括弧，直後にコンマは不要)，発行所，最後もピリオドが必要）

〈単行本の特定の章の場合〉

Entwistle, N., McCune, V., & Walker, P. (2010). Conceptions, styles, and approaches within higher education: Analytic abstractions and everyday experience. In R. J. Sternberg, & L. F. Zhang (Eds.), *Perspectives on thinking, learning, and cognitive styles* (pp.103-136). Routledge.

（順番に，章の著者名，発行年，章の題目，収録されている単行本の編者名，書名(イタリック体)，掲載ページ(要pp)，発行所，最後もピリオドが必要）

小笠原正明 (2004)「1990年代の大学および大学院改革」絹川正吉・舘昭編著『学士課程教育の改革』東信堂，pp.71-104.

（順番に，章の著者名，発行年(直後にピリオドは不要)，章の題目(一重カギ括弧，直後にコンマは不要)，収録されている単行本の編者名，書名(二重カギ括弧，直後にコンマは不要)，発行所，掲載ページ(要pp)，最後もピリオドが必要）

〈雑誌論文の場合〉

Barr, R. B., & Tagg, J. (1995). From teaching to learning: A new paradigm for undergraduate education. *Change*, *27*(6), 12-25.

（順番に，著者名，発行年，論文題目，雑誌名(イタリック体)，巻(号)数(巻数はイタリック体)，掲載ページ(ppは不要)，最後もピリオドが必要）

松下佳代・田口真奈・大山牧子 (2013)「深い学習の評価ツールとしてのコンセプトマップの有効性－哲学系入門科目でのアクションリサーチを通じて－」『大学教育学会誌』35(2), 121-130.

（順番に，著者名，発行年(直後にピリオドは不要)，論文題目(一重カギ括弧，直後にコンマは不要)，雑誌名(二重カギ括弧，直後にコンマは不要)，巻(号)数，掲載ページ(ppは不要)，最後もピリオドが必要．なお，複数の和文著者名は「・」でつなぐ）

〈翻訳書の場合〉

Wiggins, G., & McTighe, J. (2005). *Understanding by design (Expanded 2nd ed.)*. Association for Supervision and Curriculum Development. G・ウィギンズ，J・マクタイ (西岡加名恵訳) (2012)『理解をもたらすカリキュラム設計－「逆向き設計」の理論と方法－』日本標準.

（順番に，原著者名，発行年，書名(イタリック体)，発行所，原著者名(カナ名)，訳者名，翻訳書発行年(直後にピリオドは不要)，翻訳書名(二重カギ括弧，直後にコンマは不要)，翻訳書の発行所，最後もピリオドが必要）

〈インターネットからの引用の場合〉

Association of American Colleges and Universities. (2009). *Inquiry and analysis VALUE rubric*. (https://www.aacu.org/initiatives/value-initiative/value-rubrics/value-rubrics-inquiry-and-analysis) (2022年12月1日)

中央教育審議会 (2012)『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて－生涯学び続け，主体的に考える力を育成する大学へ－(答申)』(http://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) (2016年3月30日)

（順番に，著者名，発行年(日本語の場合は直後にピリオドは不要)，ページのタイトル(日本語の場合は直後にピリオドは不要)，URL，引用者の最新アクセス日，最後のピリオドは不要）